

放射線障害と大気汚染での死傷発生確率の比較：

2011/4/8

1mSv/年被爆(ICRP)での死亡確率≒0.5人/1万人≒現日本交通事故死亡確率。

【1】：放射線被曝量と死傷確率。

<http://www.nuketext.org/kenkoueikyou.html#teisen>

国際放射線防護委員会(ICRP)では一般公衆の被ばく限度は1年間あたり1mSvです。但し、この線量の被ばくが安全だというわけではありません。「10万人がそれぞれ1mSv 被ばくすると、その中から放射線によるがん死が1人から37人の割合で発生する」と計算されています。計算の仕方によってこのように大きな違いがありますが、ICRPでは1万人に0.5人という数字を採用しています<<この値は現況日本でのほぼ自動車事故死亡率(大惨事!!)の(5000人/1.2億人×年)と同程度>>。

放射線被曝量と障害発生確率はほぼ直線関係と見られます(広島・長崎の調査)。

粗直線推計で20倍の政府予定の福島許容限度20mSv/yでは(1000人/100万人)の規模、大惨事!

原発労働者許容水準50mSv/年では1万人に25人、だが実態はそんな事でないらしい。

<http://oyoyo7.blog100.fc2.com/blog-entry-1055.html>

【2】：自動車排ガス+危険物塵灰での大気汚染と死傷確率。

警告：以下内容に付き、タバコが安全と言うつもりはないです!!。

(1)「タバコが肺がんの原因」は政府&WHOのアスベスト被害&車の大気汚染をごまかすための陰謀だった。

<http://www.geocities.jp/pojinihon/top/kankyoutabako.html>

(2)喫煙率の経年推移(喫煙率は低下、だが肺癌率は上昇の虚飾怪奇!!)。

<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/2210.html>

(3)前田和甫著、**沿道汚染**、私ならここには住まない(カップ・ビジネス)光文社、1993。

緑地土壌のセメンアスファルト被覆(都会)化も見えざる塵灰蔓延化で実は危険だ。

(4)肺癌死因の経年推移。

http://www.gamenews.ne.jp/archives/2008/06/post_3616.html

http://www.gamenews.ne.jp/archives/2008/06/3_92.html

(5)癌死亡者は33万人、近年は肺癌が一番で約1/3だから10万人が肺癌死と推計。

交通事故死亡率の20倍!!、

(6)原発放射能汚染も危険だが、自動車等の大気汚染はより隠された脅威!!

他人が加害者だと大非難、己が加害者では大沈黙、是は大矛盾。国際的な日本産放射能忌避の動きも起きた。4/8日で福島原発危機収束の**“確実な手立て”**は未だ見えない。